

令和7年度 浜松市立舞阪中学校 学校評価報告書

1 学校教育目標

よく考え 正しく判断し 実行する生徒

2 学校経営目標と重点項目

たくましく生きる「自立」、よりよく生きる「共生」を目指した教育の充実

(1) 自分や舞阪への誇り (2) 確かな学力 (3) 元気な学校 (4) いのちの教育

令和7年度キーワード：「基礎基本」「課題対応能力」「人間関係形成能力」

3 重点目標達成のための取組 ※赤字はR6から変更した部分

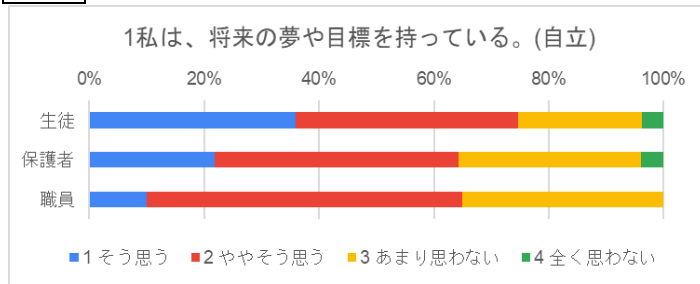
(1) 自分や舞阪への誇り	(2) 確かな学力	(3) 元気な学校	(4) いのちの教育
1. 生き方教育 - 夢や希望を持ち、自分らしさを探求する学びの場の設定 - 職業、進路講座、未来授業の実施 - キャリアパスポートの活用 2. 個に応じた支援 - 生徒理解とニーズの把握 - 活躍の場の設定と認め励ます指導(自己肯定感、自己有用感の醸成) 3. 「舞阪に学ぶ」 - 地域の特性や地域人材を生かしたキャリア講座、授業の実施 - 地域の行事への積極的参加の奨励	1. 分かる楽しい授業 基礎基本の定着 - 主体的・対話的で深い学びの実現 - 課題発見、課題解決学習の充実 - 生徒の活躍の場の設定 2. 学力状況の把握と対応 - 学力調査の分析と課題克服に向けた指導の工夫 - 個に応じた補充学習への支援 3. 教員の授業力向上 - 教員相互の授業公開 - ICT機器の効果的活用による授業の充実	1. 感動ある学校行事 - 体育祭、潮鳴祭の充実 - 生徒の主体性、協働性、創造性が育つ学校行事 2. 生徒会活動の充実 - 生徒の自発的、自治的な活動の活性化 - 社会生活に生きるあいさつや活動 - 生徒会活動を通じた人間関係づくり 3. 自分を鍛え、個性を磨く活動の奨励 - 部活動等を通じた人間力の育成 - ボランティア活動等への積極的な参加の奨励 - 得意を伸ばす指導	1. 命を守る教育 - 防災教育、訓練 - 舞中防災の日 - 性教育・命の講話 - 交通安全指導 2. 命の大切さを実感する教育 - いのちの月間(6月) - 生徒主体の「いのちを考える集会」 - いじめ茶だめマン 3. 健やかな心身の育成 - 互いのよさを認める活動の推進 - 道徳教育の充実 - 食育の推進 - 生活習慣の確立 - 相談体制の充実
小中一貫教育・キャリア教育の推進 9年間の学びをつなぐ学習指導と生徒指導 - 年間2回の小中合同研修会の実施 - キャリアパスポートを活用した9年間の学習計画と実施 - 地域人材を講師とした「キャリア講座」「授業」の設定			
地域・保護者との連携 〇地域行事への積極的な参加推奨 〇CSを軸とした地域との協働・連携 〇地域・保護者対象の学校公開の実施 〇学校だよりとブログでの教育活動公開 〇授業ボランティア		元気な学校・教職員 〇授業力、生徒指導力等の専門性を磨き続ける教職員 〇生徒、保護者、地域から信頼される教職員 〇自立し、協働し、支え合う「チーム舞阪」 〇ワークライフバランスを意識した働き方推進	

4 自己評価結果及び考察

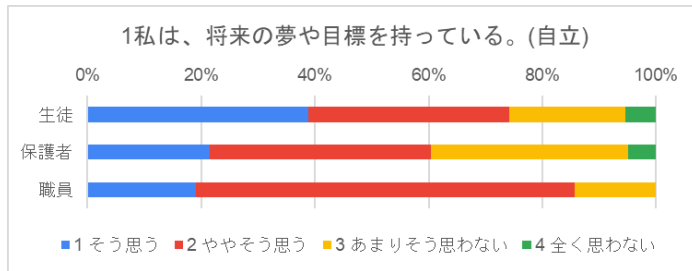
※アンケートの文面は、生徒を対象としたもののみ掲載。

(1) 自分や舞阪への誇り

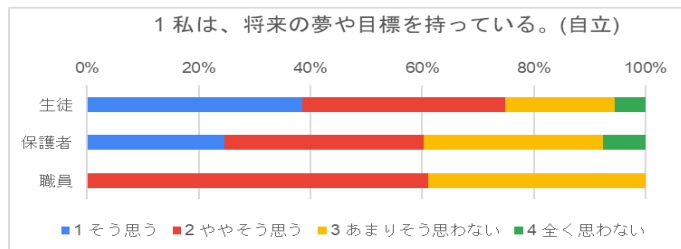
1-R7



1-R6



1-R5

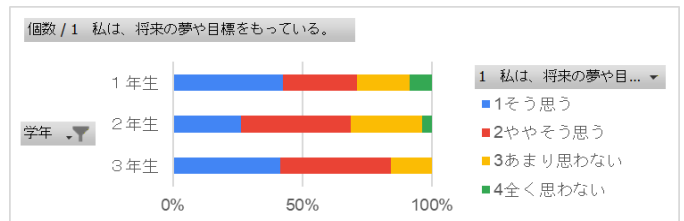


・生徒、保護者は、昨年度とほぼ同じ。

△職員の肯定的な回答の割合が減少。

第4次浜松市教育総合計画の基本理念は、「描く夢や未来の実現」である。こどもたちが、“自分らしさ”を大切にしながら、自らが社会にどのように関わっていくかを考えられるよう、浜松市が目指す教育(コンセプト、こどもと教職員の姿、5つの政策に基づく施策・取組)をもとに教育活動を行い、さらに肯定的な回答が増えるようにしたい。

なお、各学年の生徒の状況は以下の通りである。

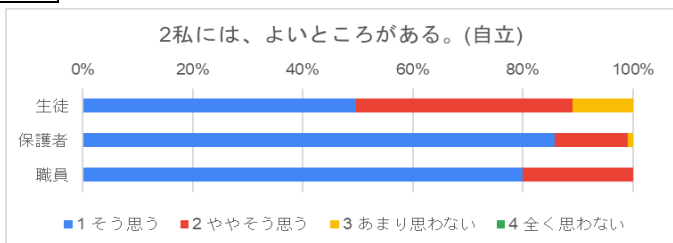


1年生の肯定的な回答が高い。

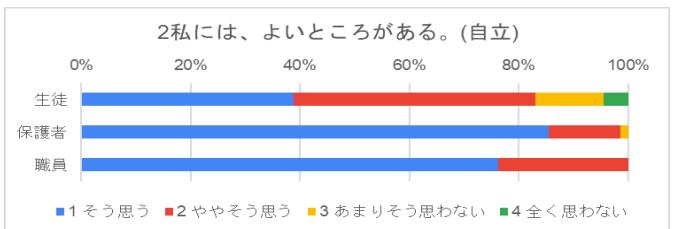
2年生は、昨年度よりも肯定的な回答が減少。

3年生は、昨年よりも「思う」の回答は減少したが、全体的には肯定的な回答が増加した。

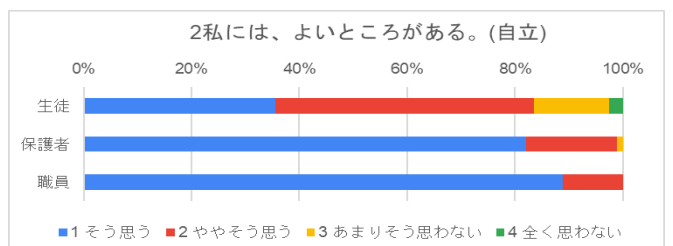
2-R7



2-R6

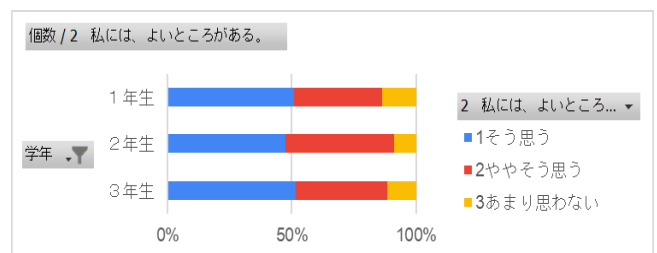


2-R5



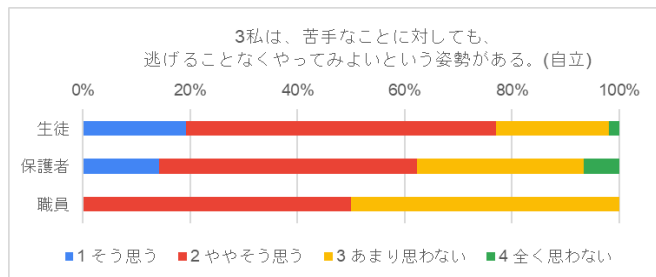
○生徒の「思う」の割合が、昨年よりも増加し、「全く思わない」と回答した生徒がいなかった。

各学年の状況は、以下の通りである。



例年、学年があがるにつれ肯定的な回答の割合が高くなるが、本年度は、どの学年も、同じような傾向であった。2、3年生の「思う」の割合は、昨年度よりも増加していた。この項目は、“自分らしさ”にもつながる。これからの、互いのよさを尊重し、誰もが活躍できる環境を設定していけるとよい。

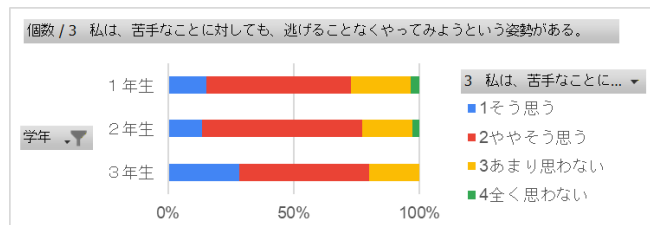
3-R7



○生徒の肯定的な回答が増加し、「全く思わない」と回答した割合が減少した。

△保護者の「全く思わない」が増加した。

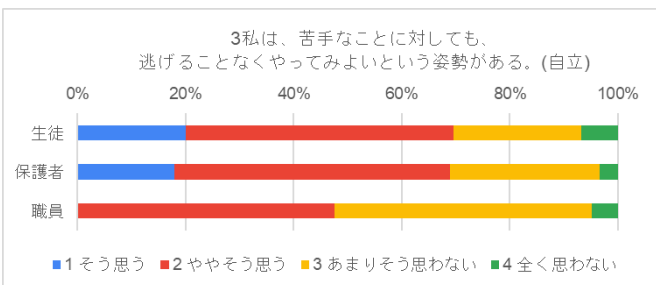
各学年の状況は、以下の通りである。



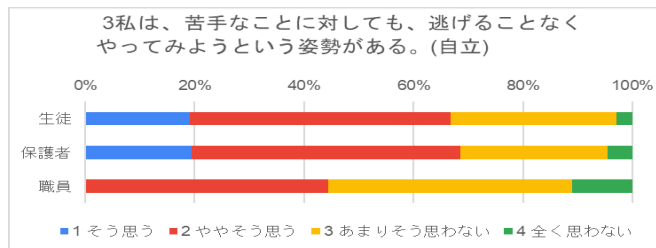
昨年と大きな変化はない。3年生の「全く思わない」と回答した生徒がいなかったことは、よい現れである。

→肯定的な回答の生徒は全体の8割に迫ってきたが、できれば「そう思う」と回答する生徒をもう少し増加させたい。一昨年から校内研修で重点を置いている課題対応能力の育成について、取組に一考が必要と思われる。

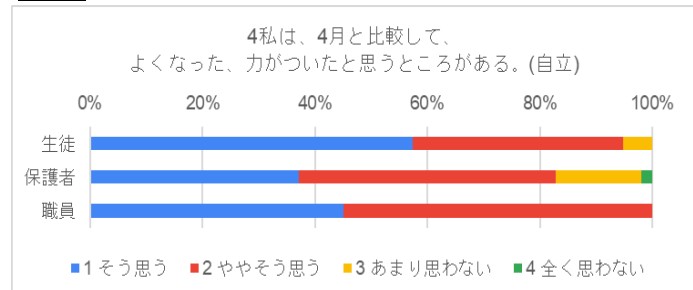
3-R6



3-R5



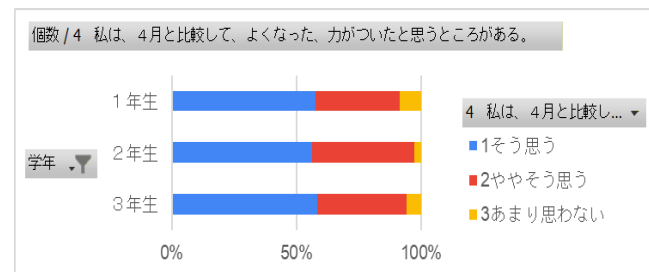
4-R7



○生徒の「そう思う」と回答した生徒の割合が増え、「全く思わない」と回答した生徒がいなかった。

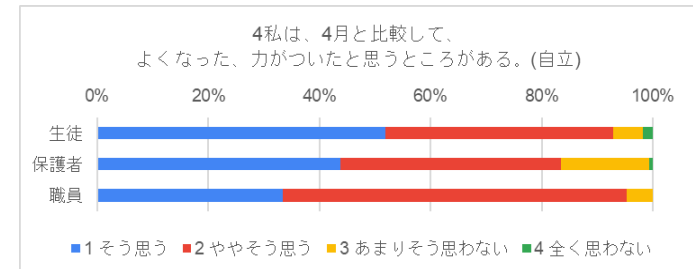
△生徒と保護者の「そう思う」と回答した割合の差が開いた。

各学年の状況は以下のとおりである。

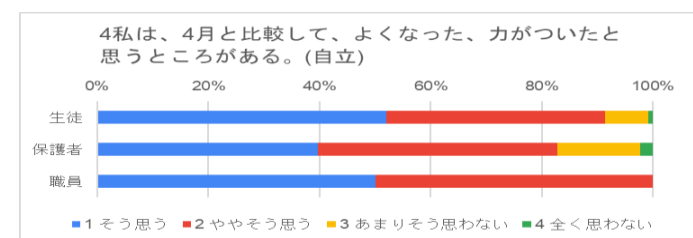


1年生の傾向は、昨年度と同様である。2、3年生の「そう思う」と回答した生徒の割合が高くなったことが、全体の「そう思う」と回答した生徒の割合の増加につながったと思われる。

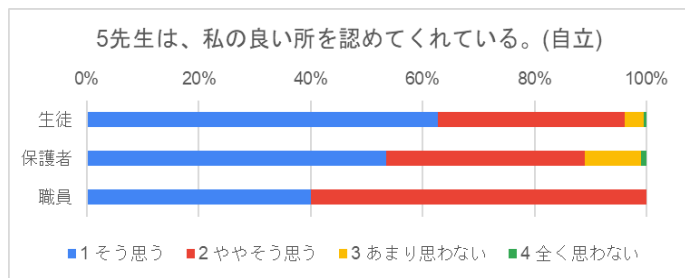
4-R6



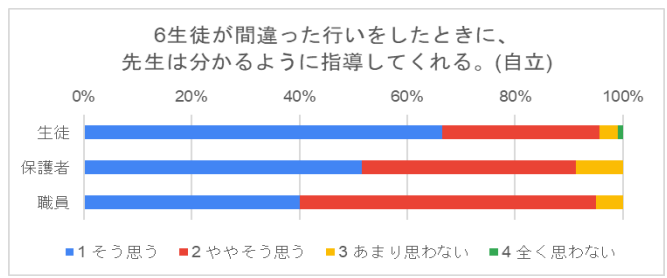
4-R5



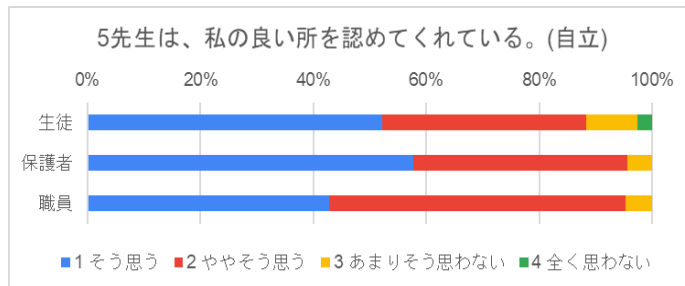
5-R7



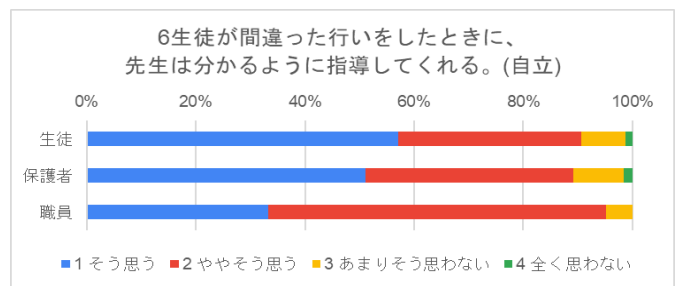
6-R7



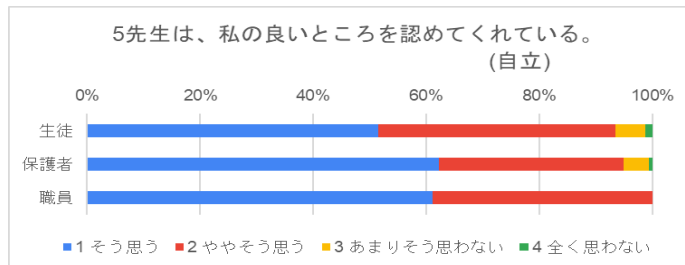
5-R6



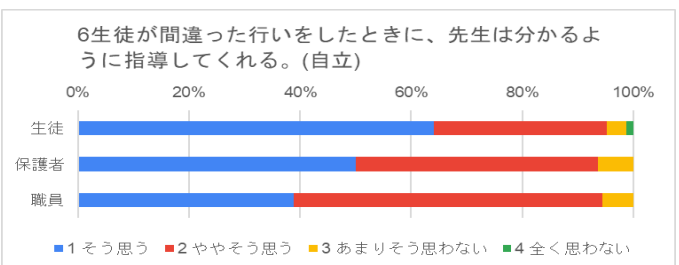
6-R6



5-R5



6-R5

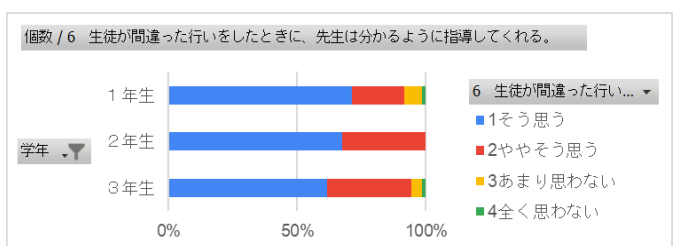
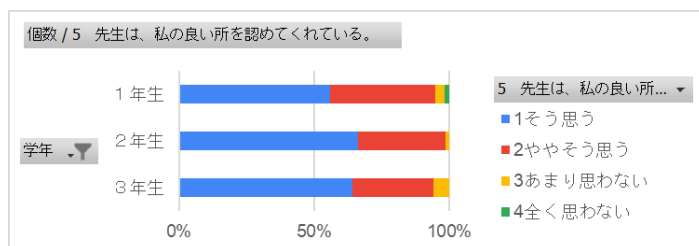


○生徒の「そう思う」と回答した割合が、ここ3年間で最も高い結果となった。

△項目5に対する保護者の肯定的な回答が減少した。ここ2年間は、生徒よりも肯定的な回答が高かった。

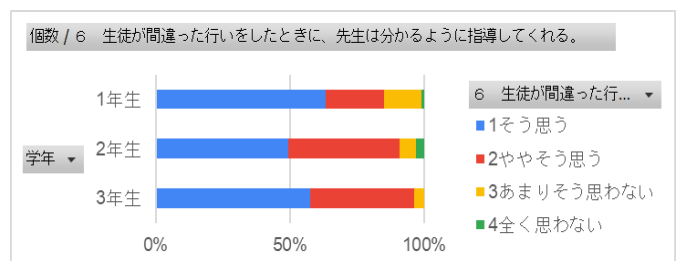
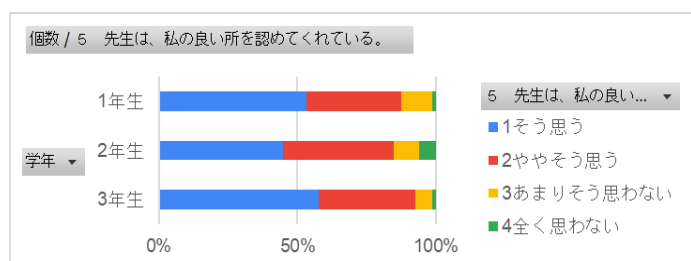
→生徒たちは、よいところを認められていると感じているので、その状況が保護者にも伝わるとよい。

各学年の状況は、以下の通りである。

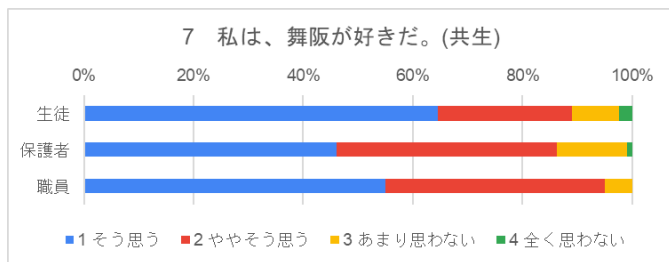


- ・ 1年生は、昨年度に比べて、肯定的な回答をした生徒の割合が多い。
- ・ 2、3年生は、「そう思う」と回答した生徒の割合が増加しており、特に3年生の伸びが著しい。

[昨年度の結果は以下の通り]



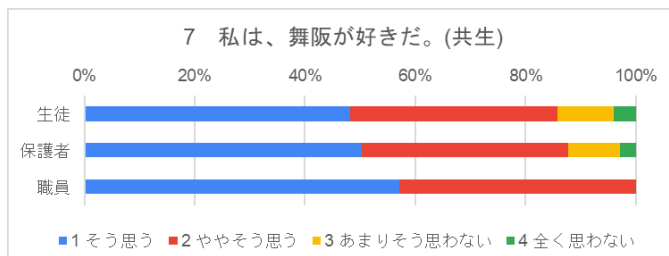
7-R7



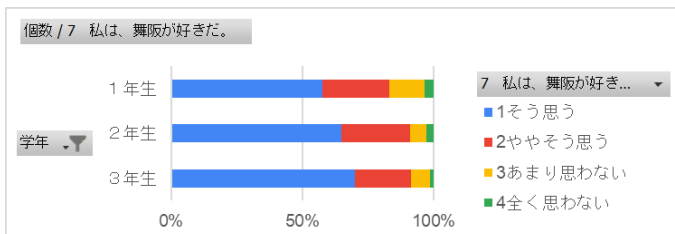
○生徒の肯定的な回答をした割合は、例年とほぼ同じであるが、「そう思う」と回答した割合がかなり伸びた。

△保護者の「そう思う」と回答した割合は、年々減少している。

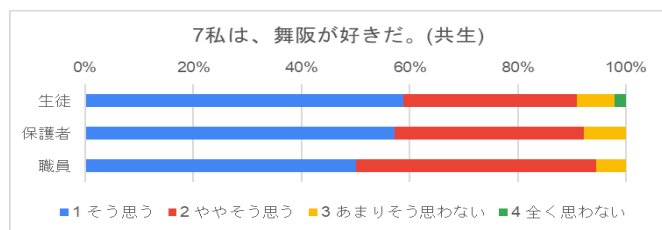
7-R6



各学年の生徒の状況は以下の通りである。



7-R5



2、3年生の「そう思う」と回答した生徒の割合が、昨年に比べて増加した。特に3年生は、昨年「そう思う」と割合が5割に満たない状況から、大幅な増加傾向が見られた。

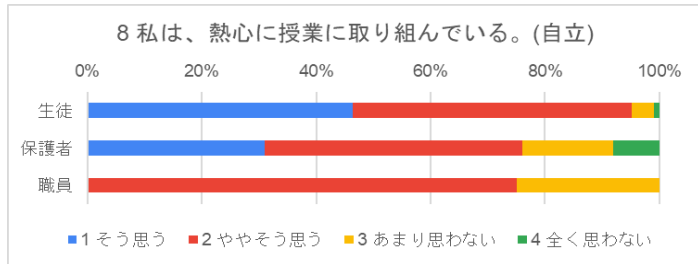
1年生は、否定的な回答をした生徒の割合が、昨年よりも多かった。

→今年度は、学校支援コーディネーターを軸として、多くの地域人材を生かした取組を実施した。(防災に関して「舞中防災の日」での炊き出しや1年生の総合的な学習での自治会や消防団と連携した授業の実施、2年生の職場体験先の選定や家庭科ボランティア等)

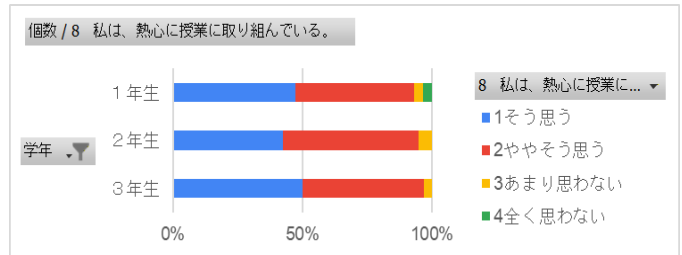
→今後も、このような地域と連携した取組を模索、実践していきながら、地域の未来を考え、地域の形成に参画する態度の育成につなげられるとよい。

(2) 確かな学力

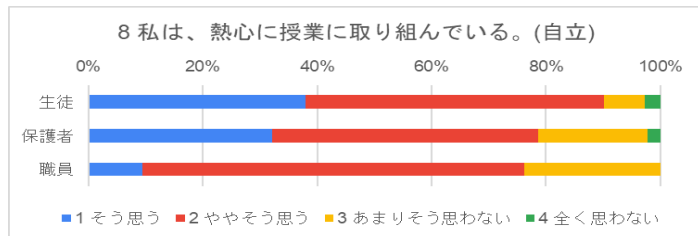
8-R7



各学年の状況は次の通りである。



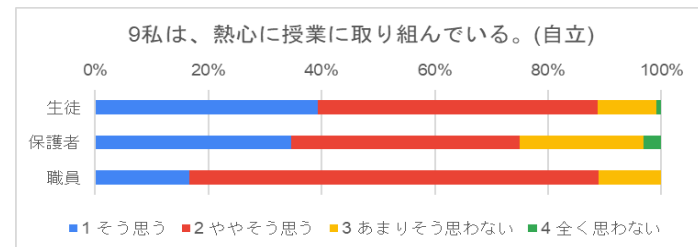
8-R6



○生徒の肯定的な回答の割合が増加した。

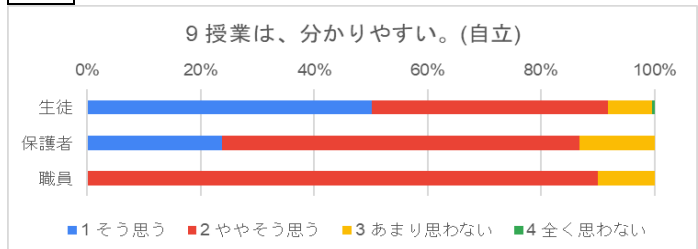
2、3年生は、昨年よりも「そう思う」と回答した生徒の割合が増加し、「全く思わない」と回答した生徒がいなかった。

8-R5

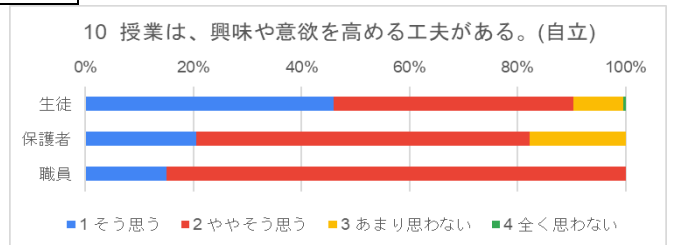


次の2つの項目は、授業の方法についてである。

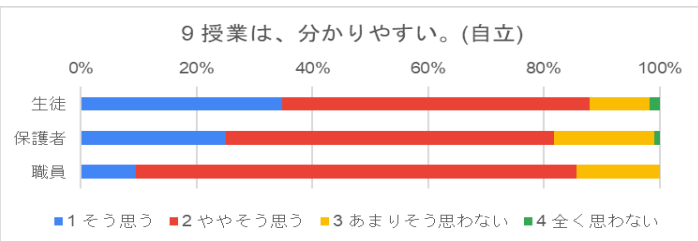
9-R7



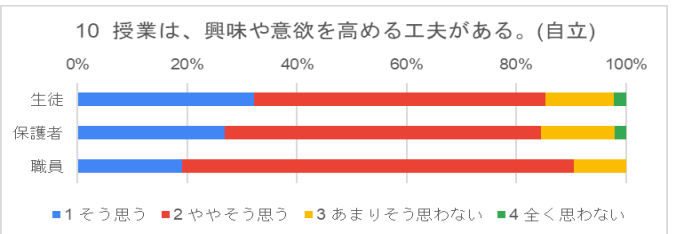
10-R7



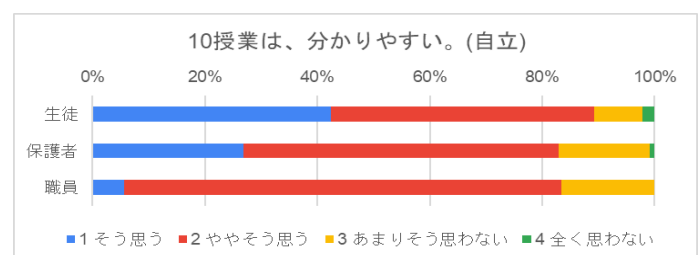
9-R6



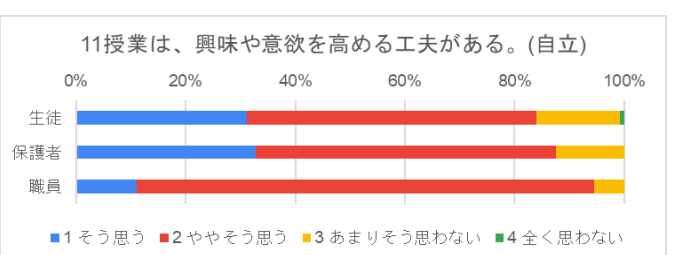
10-R6



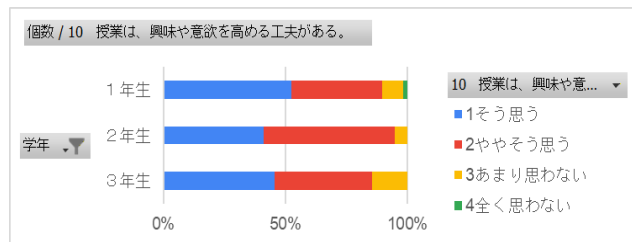
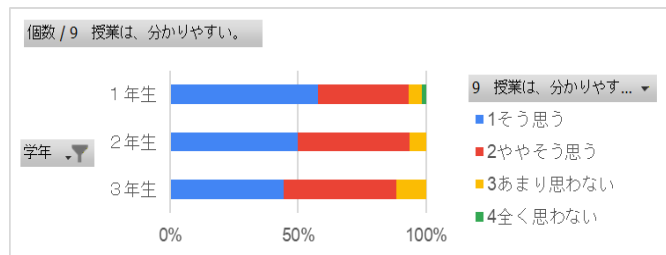
9-R5



10-R5



そして、各学年の生徒の状況は以下の通りである。



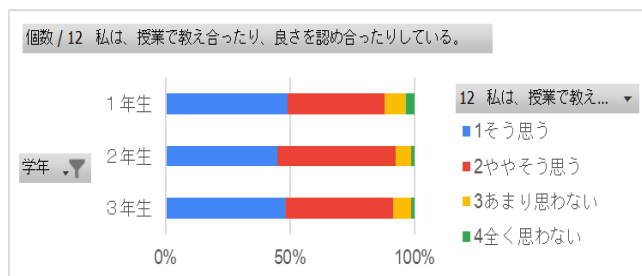
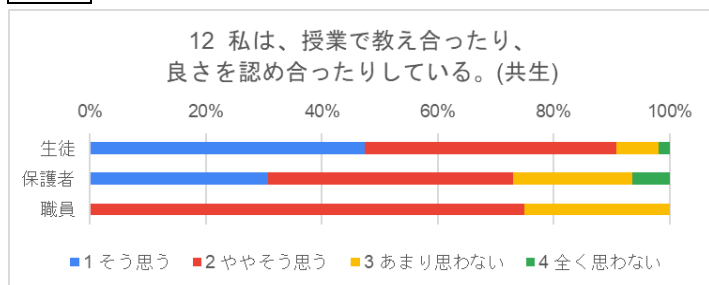
- 生徒の肯定的な回答、特に「1 1そう思う」と回答した生徒の割合が、かなり増加した。
- 1年生は、ここ3年間で「1 1そう思う」と回答した生徒の割合が、初めて50%を超えた。
- 2、3年生は、「1 1そう思う」と回答した生徒の割合が、昨年よりも増加した。

→本年度の学校経営キーワードの1つに“基礎基本”がある。各教科の授業等で既習事項に繰り返し触れる機会を設けたり、定期テストの出題内容を生徒の取組が結果につながるよう工夫をしたりしてきた。また、全国学力学習状況調査の質問調査においても、「授業において、教え方、教材、学習時間が自分に合っている」と回答した生徒の割合は8割に上る。生徒たちの成長とともに、本年度の取組の成果が少しずつ見えているものと思われる。

「協働的な学び」につながる質問に対しての回答は、以下の通りである。

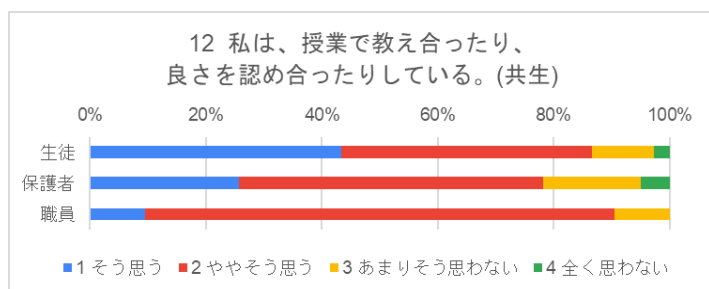
12-R7

各学年の生徒の状況は以下の通りである。

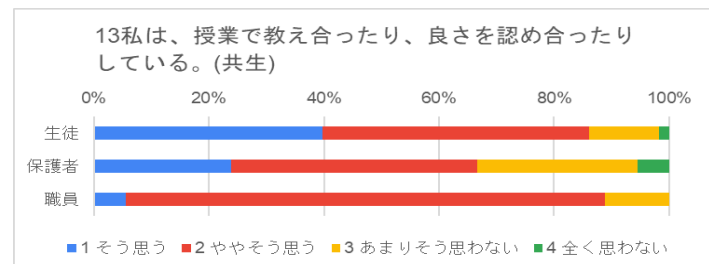


12-R6

- ・生徒、保護者ともに大きな変化はない。
- また、生徒の学年別の結果も同様である。
- △教職員の肯定的な回答が減少した。

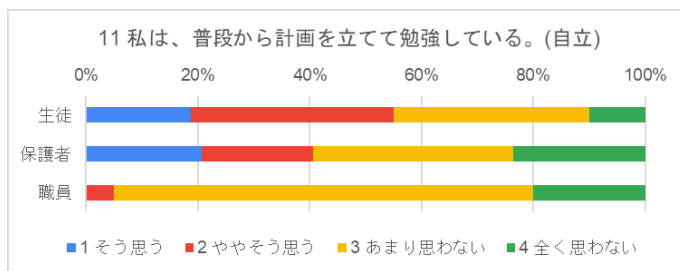


12-R5



→第4次浜松市教育総合計画のコンセプトと目指すこどもの姿に、“協働”が設定されている。教職員は、授業だけではないが、他者と協働して解決する場面を今以上に意識して設定していく必要があると思われる。その際、生徒たちが、自分らしさを大切にしながらも、多様な考え方を受け入れつつ、よりよい解決につながるよう、課題の設定や解決の手立て等、教師の働きかけに関してさらに磨きをかけていきたい。

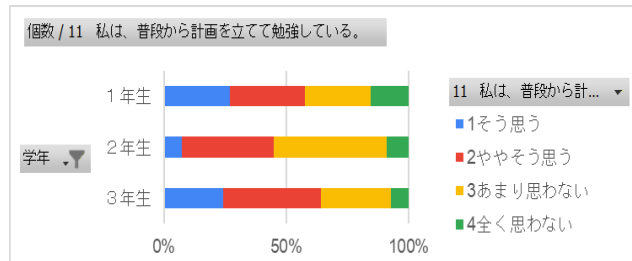
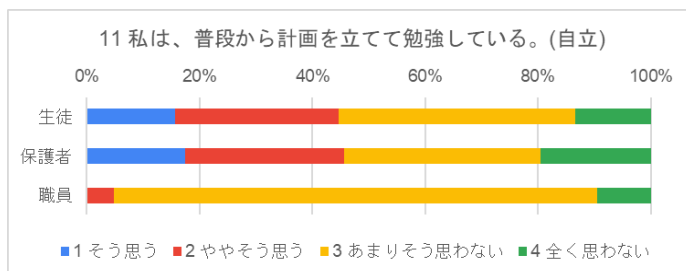
11-R7 こどもたちの“計画的な勉強への取組”についてである。



○生徒の肯定的な回答の割合が増加した。
△保護者と職員の「全く思わない」の回答の割合が増加した。

各学年の状況は以下の通りである。

11-R6

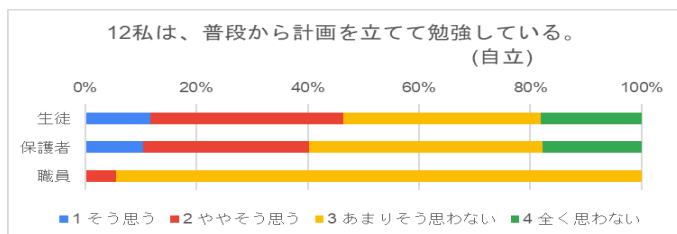


○△1年生は、肯定的な回答をした生徒の割合が例年より高いが、「全く思わない」と回答した割合も高い。

△2年生は、肯定的な回答をした生徒の割合はあまり変わらないが、「そう思う」と回答した生徒が減少した。

○3年生は、肯定的な回答をした生徒の割合が増加した。

11-R5

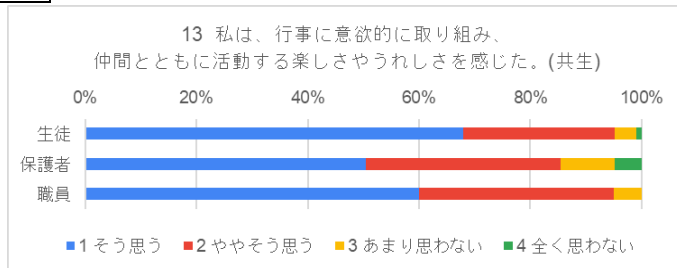


→ 昨年度、この項目において、“肯定的な回答が5割を超える状況を目指したい”と目標を設定したが、生徒の結果において肯定的な回答が5割を超える状況を得られ、目標を達成した。
特に3年生の伸び率が高く、勉強することが自分の将来・未来の夢や生き方につながることを自覚できるような生き方教育や、各教科での家庭学習への取り組みせ方の工夫を行ってきた結果とも言える。

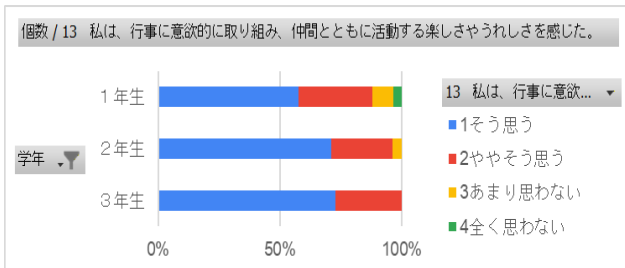
1年生に「全く思わない」と回答した割合が高くなっているが、学年があがるにつれ減少している状況を踏まえ、今後も継続的な働きかけをしながら様子を見ていきたい。

(3) 元気な学校

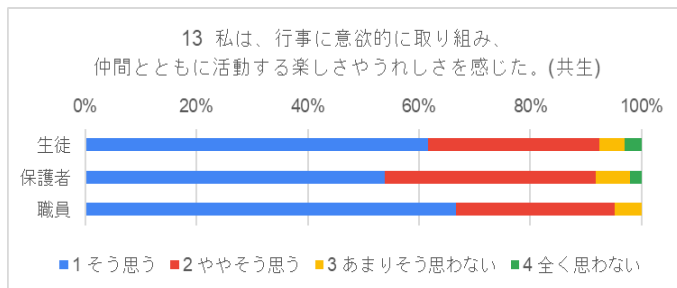
13-R7



各学年の生徒の状況は以下の通りである。



13-R6

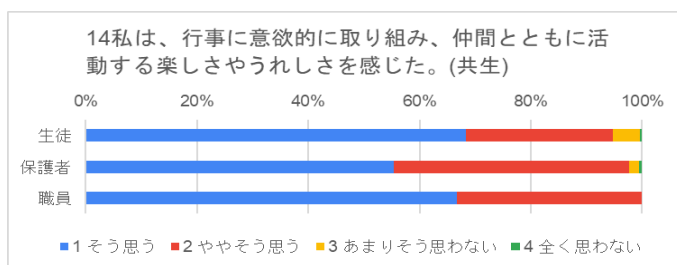


○生徒の「そう思う」と回答した割合が増加し、一昨年と同じような結果となった。

△保護者の「全く思わない」と回答した割合が、年々増加している。

△職員の「そう思う」と回答した割合は減少しているが、肯定的な回答の割合はほぼ同じであった。

13-R5

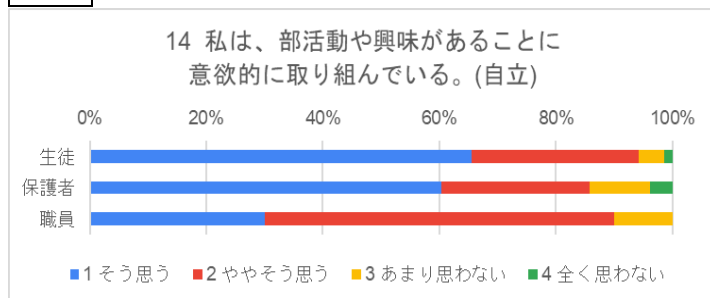


○2、3年生は、昨年よりも「そう思う」の割合が増えていた。

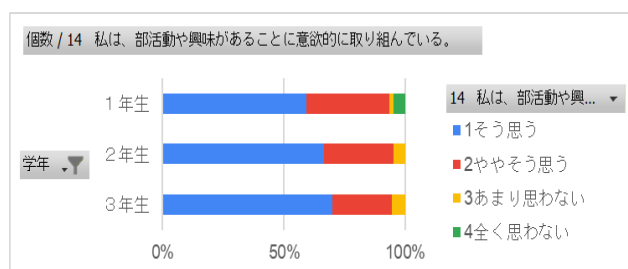
△1年生は、昨年の結果よりも「そう思う」と回答した割合が減少していた。

→多様な人々と協働しながら社会変化を乗り越えていく力をつけるためにも、行事への取り組みは、生徒の成長のきっかけともなる大切な活動である。例年9割にのぼる生徒が肯定的に回答する項目ではあるが、集団での活動に苦手意識を持っている生徒もいる。そのことが、保護者の結果の一因とも考えられる。今後も、その子らしさに寄り添いながら、さまざまな教育活動を通して、社会で必要となる力をつけさせていきたい。

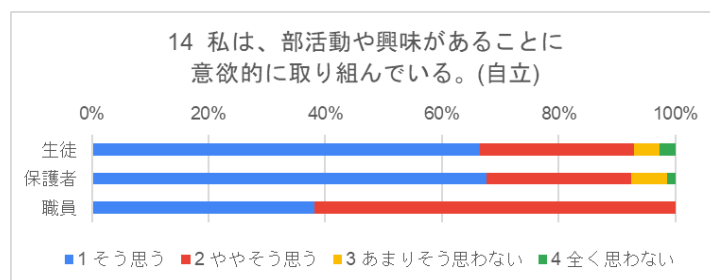
14-R7



各学年の生徒の状況は以下の通りである。



14-R6



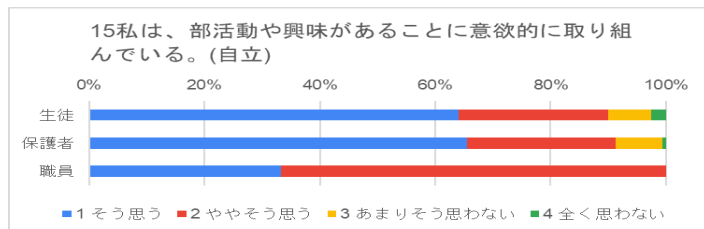
・生徒全体の結果は、あまり変化がない。しかし、学年別に見てみると、

○3年生は、昨年よりも肯定的な回答の割合が増加し、さらに「全く思わない」の回答がなくなった。

・2年生はほとんど変化がなかった。

△1年生は、肯定的な回答をした生徒の割合

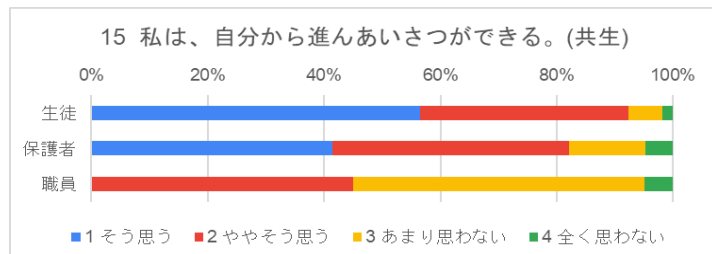
14-R5



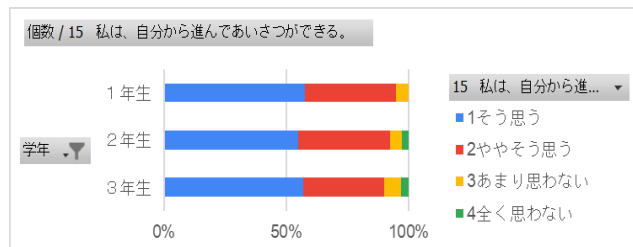
は、昨年とほぼ変わらないが、「全く思わない」と回答した生徒の割合が増加した。

→自己理解の学習を進めながら得意を伸ばすことを奨励するとともに、部活動の地域展開に関わる情報を生徒、保護者と共有しながら、よい傾向を維持していきたい。

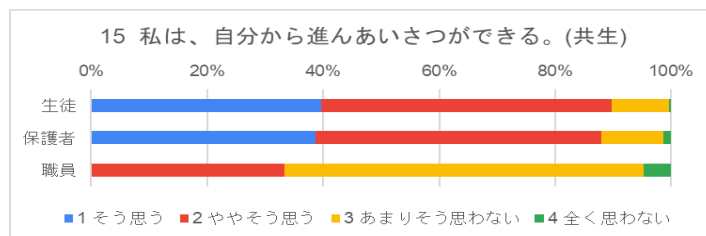
15-R7



各学年の生徒の状況は以下の通りである。



15-R6

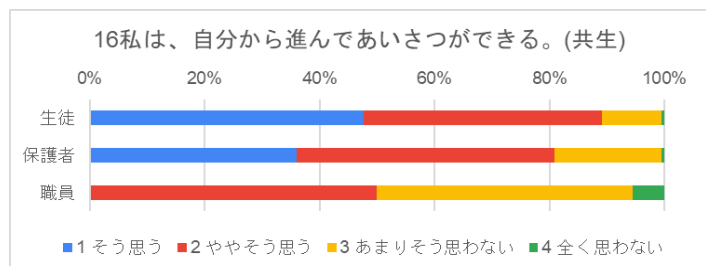


○生徒の「そう思う」と職員の「ややそう思う」の割合が増加した。

2、3年生ともに、昨年よりも「そう思う」の割合が増加していた。

○保護者の肯定的な回答は多少減少しているが、「そう思う」の割合は少し増加した。

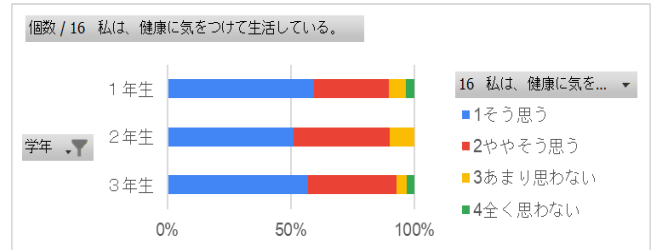
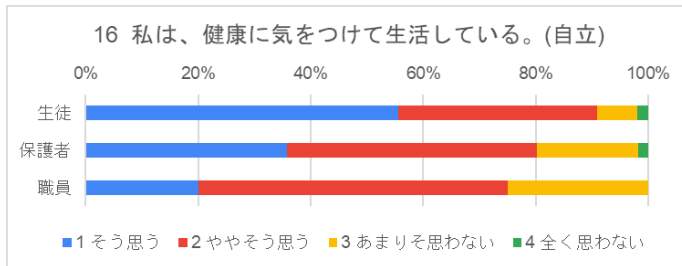
15-R5



(4) いのちの教育:いじめ防止基本方針に対する取組について

16-R7

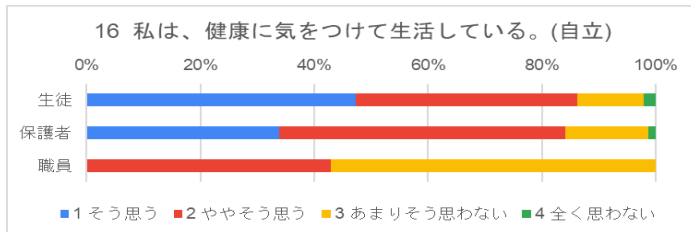
各学年の状況は以下の通りである。



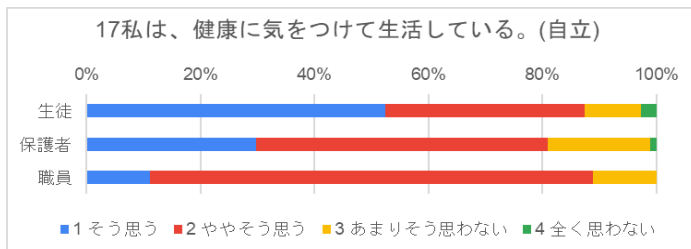
16-R6

○生徒の結果は、全学年で肯定的な回答の割合が増加した。

職員の肯定的な回答も、8割近くに回復。



16-R5

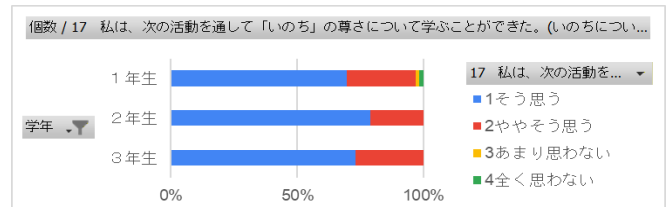
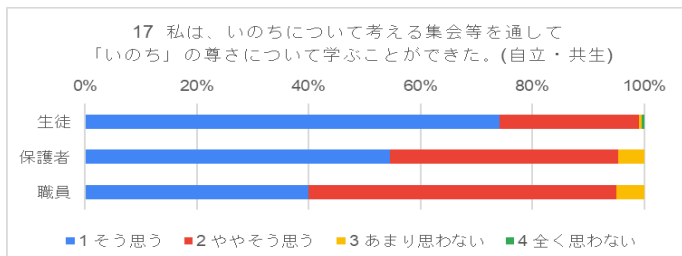


「いのち」の尊さについての学び

17-R7

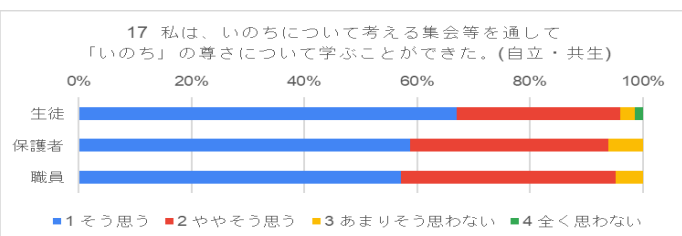
※いのちについて考える集会等とは、心の教育講座や防災訓練。

各学年の状況は以下の通りである。

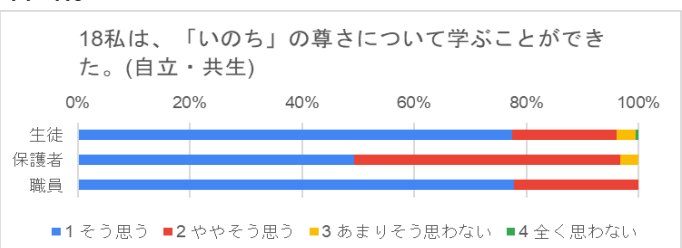


17-R6

○生徒の「そう思う」と回答した割合が増加した。3年生が昨年に比べて「そう思う」と回答した生徒の割合が増加したり、「全く思わない」と回答した生徒がいなくなったりしたことが、よい結果につながった。



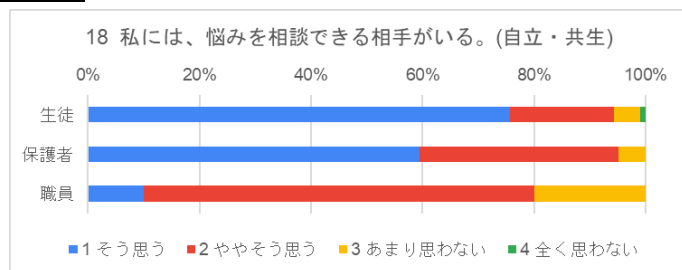
17-R5



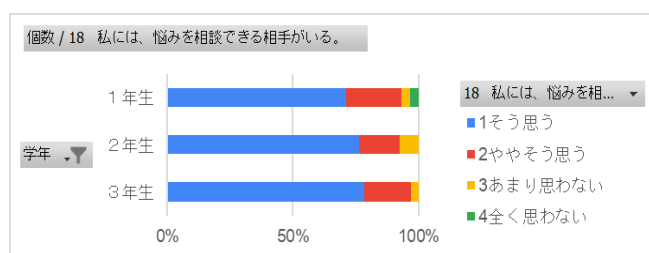
△職員は、年々「そう思う」と回答する割合が減少している。

→学んだことと、日常の生徒の言動との差が要因の1つと思われる。「いのちについて考える集会」をはじめ、生徒が自分事として考え、他者の「いのち」も大切にしようとする姿勢を今以上に育てられるようにしたい。

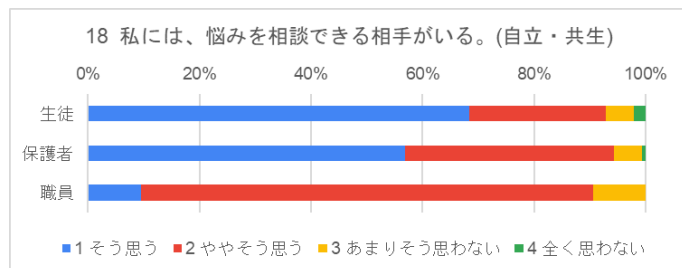
18-R7



各学年の生徒の様子は以下の通りである。



18-R6

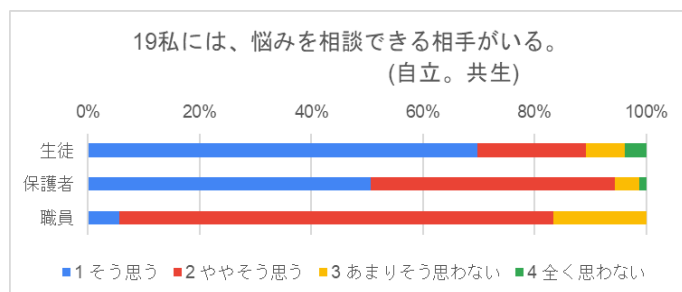


○生徒の「そう思う」と回答した割合が増加した。2、3年生の割合が増加したことが全体の結果に表れていると思われる。

・1年生の「全く思わない」と回答した割合が目立つが、所属人数が少ないため割合が高くなっている。

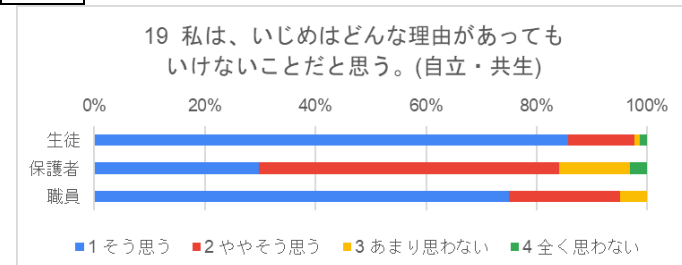
→今後も、生活アンケートや三者面談など、生徒に寄り添った生徒指導、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門機関と連携を継続していきたい。

18-R5

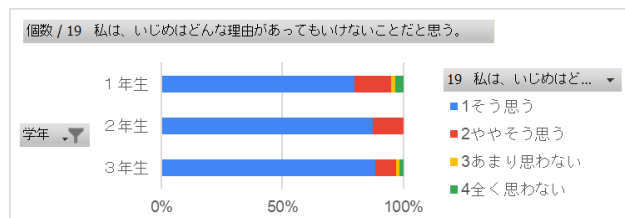


19-R7

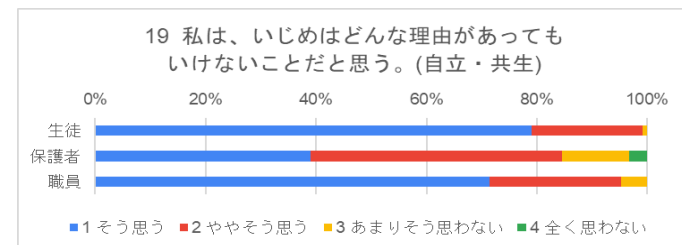
※保護者と職員は、いじめを許さない学校づくりをしているかについての質問。



各学年の状況は以下の通りである。

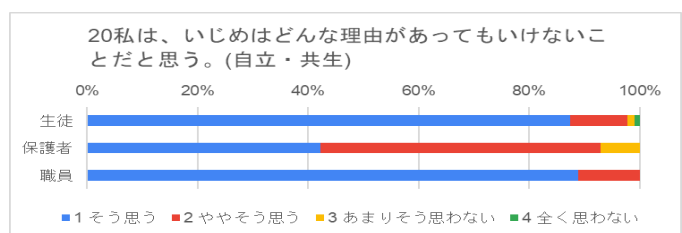


19-R6



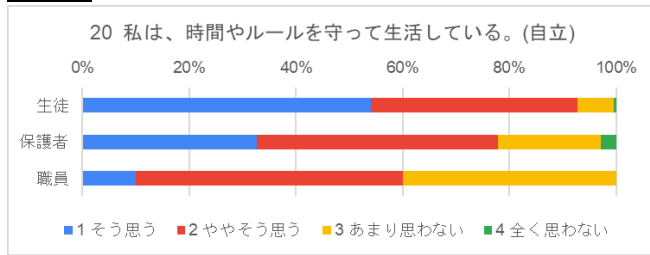
○生徒の「そう思う」と回答した割合が増加した。どの学年も昨年よりも増加していた。
△否定的に回答している生徒が5名いた。
△保護者の肯定的な回答は毎年8割を超えているが、「そう思う」と回答した割合は、毎年減少している。

19-R5

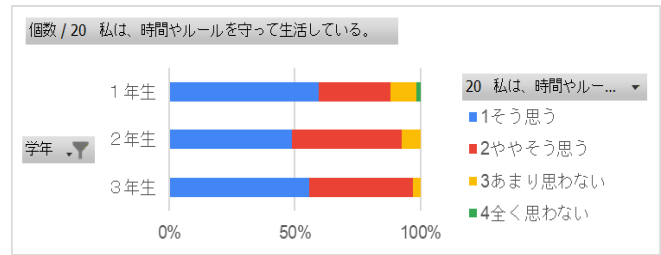


→保護者からは“ひとりひとりに目を届かせ誰もが安心して生活できる環境づくり”を期待されている。
→発達支持的生徒指導を軸に、17の項目とかわらせた教育活動を行うとともに、課題の早期発見・課題予防的生徒指導に努めたい。

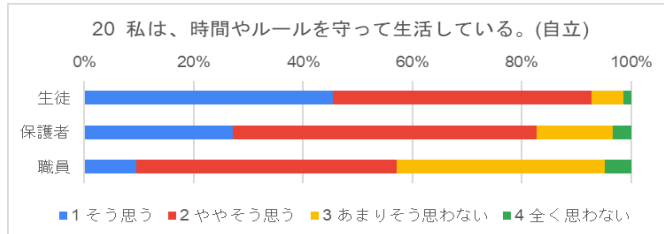
20-R7



各学年の状況は以下の通りである。



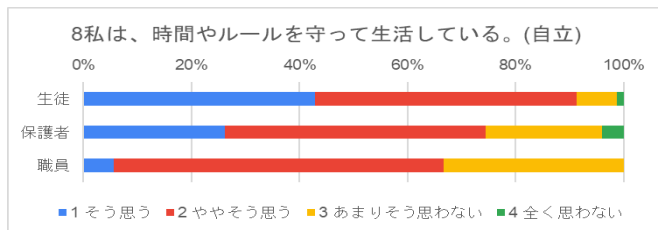
20-R6



○生徒は、どの学年も「そう思う」と回答した生徒の割合が増加したため、全体的にも「そう思う」と回答した割合が肯定的な回答の半分以上を占めるに至った。

・保護者、職員は、大きな変化は見られない。

20-R5



〈令和7年度いじめ防止基本方針に対する取組〉

年間指導計画に沿って実施した。主な取組は、以下の通り。

- ・ 浜松市の方針を受けて、昨年度末に改訂した舞阪中学校版「いじめ防止基本方針」を、年度初めに新しい教職員で再確認を行った。
- ・ 校内での年度当初の生徒理解研修の他、生徒指導委員会を週1回のペースで開催し、生徒の様子を丁寧に見取り共有を図った。その際、月1回のペースでスクールソーシャルワーカーにも出席してもらい、連携を図った。また、これらの生徒の様子を受け、随時、いじめ対策委員会を設け、いじめの積極的な認知と対応を行った。
- ・ 舞阪小学校とも、小中合同研修会や新入生等の情報共有を行った。
- ・ 生徒の様子をつかんだり、生徒・保護者からの相談を受けたりする機会として、今年度も継続して、以下のことを実施した。
 - 生徒へのタブレットを用いた生活アンケート 年3回(6月、11月、2月)
 - 生徒への「心のダイヤルカード」の実施 年3回(5月、10月、1月)
 - 三者面談 1学期末と2学期末 ○希望制面談 年度初めと年度終わり
 - スクールカウンセラー等の活用と連携
- ・ 今年度も、6月を「いのちについて考える月間」と位置づけ、以下のことに取り組んだ。
 - 校長講話 ○命にかかわる教材による道德の授業
 - 「いのちを考える集会」と「私のハート」(生徒会本部・保健体育委員会主催)

5 重点目標達成のための取組に関する改善方策について

重点 1 自分や舞阪への誇り

【学校評価アンケートから見えてきた生徒の傾向】

○自分のよさを認め、成長を実感している生徒が多い。

また、それらのことを教職員にも認められていると感じており、教職員の指導も肯定的に受け止めている生徒が多い。

○自分たちの住むこの「舞阪が好き」だという生徒が多い。

しかし、

△将来の夢や目標など今見えていないことや未知のことについて思い描く力や見通す力、苦手なことに挑戦する力が弱い傾向にある。

そのため、

→自分自身のよさが将来の夢につながる体験や、舞阪の未来を自分事として考えられる体験、自身の成長と“やってみた”の積み重ねとのつながりを実感できる手立てなど、育ちや学びをつなぐ教育の推進が必要だと思われる。



【教育課程編成会議で検討した改善方策】

1. 生き方教育 3. 「舞阪に学ぶ」

①今年度、「総合的な学習の時間」や「舞中防災の日」では、学校支援コーディネーターとの連携により、防災学習、職場体験学習等が大変充実していた。

来年度も、継続できることは継続していきたい。

②さらに、舞阪の未来を自分事として考えられるように、3年生のしおなり体験の日(来年度は11月20日に実施予定)に、舞阪でしかできないようなことを体験させるとともに、未来を見据えた現時点での地域の課題について生徒に投げかけ、改善策について考えさせるようなプログラムができるとよい。

2. 個に応じた支援

・学習面と生活面のどちらにも、個別の支援を必要とする生徒が多く、教職員数が減少していく中で、なかなか対応が追いついていない現状がある。

→職員数の配置次第で可能ならば、チームティーチングでの習熟度別学習を実施したい。

→地域の方によるボランティアの活用を考えたい。

例：学習支援ボランティア、休み時間を含めた見守りボランティア など

重点2 確かな学力

【学校評価アンケートから見てきた生徒の傾向】

- 生徒たちなりに、授業に熱心に取り組もうとしており、課題にも計画的に取り組もうとしている。（目標とした数値を達成した項目もある。）
- 生徒は、授業は興味を高める工夫があり、分かりやすいと思っている。

しかし、

△保護者や教職員のアンケート結果との差がある。

さらにやってほしい、まだまだ足りないという思いのあらわれではないかと考える。

そのため、

→今年度重点をおいた“基礎基本”に対する取り組みを継続していくとともに、“単元の見通しをもち、自己調整しながら課題に取り組む、自分の学びについて振り返る”という一連の流れを意識した授業にも力を入れたい。



【教育課程編成会議・研究推進委員会で検討した改善方策】

1. 分かる楽しい授業

- ・学力、学習内容の定着度（小学校までの学習内容も含む）の差があり、どの層にも響かない指導になっている。
- 職員数の配置次第で可能ならば、**チームティーチングでの習熟度別学習**を実施したい。
- 地域の方によるボランティア**の活用を考えたい。

2. 学力状況の把握と対応

- ・重点項目が実情と合っていない。→ **2. 個に応じた学習支援**としたい。
- ・「自己調整する力」の育成を見据え、生徒が自分の力に合わせて取り組むことができるように、**学習課題の提示方法を工夫**する。
例：全員が取り組む必修課題と習熟度に合わせて各自で選択して取り組む課題
- ・教科で購入している問題集や2年生から導入している入試対策問題集などの**教材選定を生徒の実情を踏まえて見直していく**。

3. 教員の授業力向上

- ・重点項目が実情と合っていない。→ **3. 教員の指導力向上**としたい。
- ・具体的な取組に「教員相互の授業公開」とあるが、時間割を組む上で、なかなか難しい。
→「授業公開」を目的とするのではなく、**生徒に力を付けていくための研修**とする。
「見通す・振り返る・つなげる」を意識した授業、生徒が主体的に学びに向かう授業をするために、どんな手法をしていくとよいのか、実践につながる研修としたい。

重点3 元気な学校

【学校評価アンケートから見てきた生徒の傾向】

○どの項目も、8割を超える生徒が、肯定的な回答をしている。

○今年度、二大行事について、暑さを回避するためにこれまでの時期から変更し、10月初めに「潮鳴祭」、10月末に「体育祭」を行った。行事の計画や準備、実施の流れが、生徒の育成にどのように影響するのかを心配したが、合唱コンクールでのクラスの取組を活かして体育祭での集団活動に取り組めていた。

そのため、

→今年度の取組を継続しつつ、細かな課題に対して見直していく。

多様な人々と協働しながら社会の変化を乗り越えていく力をつけるためにも、行事をはじめとする他者との関わりの中で学ぶ取組は、生徒の成長のきっかけとなる大切な活動である。しかし、準備段階での負担、生徒数や教職員数の減少、学校教育に求められるものなど、さまざまな課題や変化を考え、前年度踏襲ではなく、よりよいあり方になるようにしていきたい。



【教育課程編成会議で検討した改善方策】

1. 感動ある行事

- ・開催時期は、今年度と同じ時期で設定。保護者からは、同月開催の回避を希望する声があったが、ホールの予約状況や他の予定とのかかわりから、やむを得ず同月開催とした。
10/1(木)潮鳴祭 終日開催 福祉交流センター ※保護者からも終日開催の声があり。
10/30(金)体育祭 終日開催 本校運動場 ※予備日 11/2(月)
- ・体育祭での種目内容、招集方法、生徒による運営、ボランティア席の必要性等を検討する。
- ・潮鳴祭での終日開催での流れ、学級減による表彰内容や個人賞のあり方を検討する。
- ・縦割り集団を年度当初に決め、行事に向けた異学年交流を模索したい。

2. 生徒会活動の充実

- ・年度当初の対面式、生徒総会、6月のいのちの集いなど、時期によって生徒会行事が重なることや部活動とのかかわりが、生徒の負担になっている。
 - ・体育祭を10月末にしたことで、生徒会種目の立案時期が、役員の前後期入れ替え時期と重なり、運営が難しくなった。
- 自治的な活動は大切だが、状況に合った内容にしていく。

3. 自分を鍛え、個性を磨く活動の奨励

- ・部活動の本入部までの流れを一律にせず、生徒個々の状況に添える工夫をする。
- ・部活動の地域展開に向け、生徒、保護者、地域と情報共有を図っていく。

重点4 いのちの教育:いじめ防止基本方針に対する取組について

【学校評価アンケートから見えてきた生徒の傾向】

○どの項目も、肯定的な回答や「そう思う」の回答の割合が増加していた。

防災学習では、舞中防災の日に地域の方が参加したり、1年生の防災学習において自治会や消防団の方と連携をしたりして、進めることができた。

しかし、

△保護者や職員も肯定的な割合は多くを占めていたとしても、生徒の結果との差が見られた。

そのため、

今後も、体験を伴う活動、地域の人材の活用、専門的な機関との連携等に力を入れ、学んだことを日常の言動に活かし、自他の存在を大切にできる生徒の育成を継続していきたい。



【教育課程編成会議で検討した改善方策】

1. いのちを守る教育

- ・交通安全 対象年齢ではないが、青切符制度に対応し、校内でのルールの見直しをする。
- ・舞中防災 地域の方との「炊き出し」など、内容は継続し、来年度は東日本大震災の関係者による講話を計画している。
- ・教員研修 防災トイレやテントの設営、被災後の運営について学ぶ機会を検討する。

2. 命の大切さを実感する教育

- ・命について考える集会
“いのち”や“いじめ”について考える内容にしたいが、生徒の手で企画や運営を行うには、難しいテーマである。「読み聞かせ」など地域の方との連携も含め、内容を検討したい。

3. 健やかな心身の育成

- ・昨今のSNSトラブルの増加に伴い、「情報モラル講座」を取り入れていく。
- ・本当に必要としている人が利用しやすい場所になるよう、保健室や図書室の利用の仕方を見直す。例:保健室利用カードの導入
- ・必要に応じて、登下校の制服や校内での体操服などの着用ルールも見直していく。

6 学校関係者評価

2月20日（金）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告した。委員からは以下のような意見があった。

※全体的なアンケート結果について

- ・生徒の学年別のデータに添えられている分析が、昨年のどの集団と比較しているのか、分かりづらかった。
→教務主任より、昨年との比較は同じ集団の比較であることを伝えた。
例：現3年生が昨年2年生だった時との比較。現2年生が昨年1年生だった時との比較。

(2) 確かな学力

- ・アンケート項目8や11の結果が生徒と教職員で差があるのは、「熱心な授業」や「計画的な勉強」についての認識にずれがあるのではないと思われる。
授業への熱心な取り組みができている姿、計画的な勉強ができている状態を具体的に示してアンケートをとった方がよい。
生徒たちにできていないことを知ってもらうことが大切である。
- ・今の本校の学力や取り組む態度から考えると、生徒のアンケート結果は甘いと感じた。
さらなるレベルアップを期待している。
- ・アンケートは気持的な面からのアプローチが多いので、数値的なデータとのクロス集計をするとよりよいものになると思う。
- ・アンケート結果をもとに、よりよい方向にしていってほしい。

(4) いのちの教育：いじめ防止基本方針に対する取組について

- ・いじめ対策委員会が開かれていることを知らなかった。
→教頭より、いじめ対策委員会やいじめの定義等を説明し、組織で対応していることを理解していただいた。

7 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・学校評価アンケートの結果は、生徒、保護者、教職員の3年間のデータを掲載するだけでなく、生徒学年別の経過がわかるデータも掲載する。
ただし、アンケート項目を変更した場合は、その限りではない。

(2) 確かな学力

- ・ 研究推進委員会とも連携し、授業への熱心な取り組みができている姿、計画的な勉強ができている状態を具体化し、年度当初の教科ガイダンス等で生徒と共有を図っていく。
このことは、本校の学校経営のキーワードに掲げている「基礎基本の定着」にもつながる
と考える。その上で、学校評価アンケートを実施していきたい。

(4) いのちの教育:いじめ防止基本方針に対する取組について

- ・ 「いじめ防止基本方針」については、第 1 回学校運営協議会で毎年熟議の一つとして取り上げている。今後も、学校ホームページへの掲載等による保護者や地域への周知を図り、いじめを許さない学校づくりを組織として継続的に取り組んでいきたい。

以上の改善方策に基づき、次年度、本校の教育活動が充実するように努めていきたい。